

フローリング材低温水式床暖房試験報告書

平成21年10月16日

株式会社 エスコンポ 御中

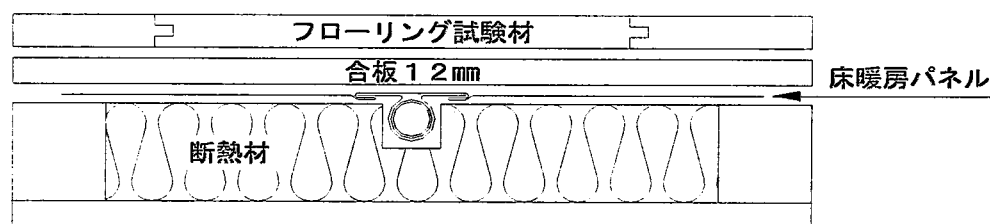
東京都千代田区外神田2-12-2

富士環境システム株式会社

試験担当：吉村 正可

ご依頼のフローリング材について床暖房対応試験の結果報告をいたします。

1. 実験方法



床暖房試験断面図

図のような試験装置にサンプル試験材を置き連続加温を行い、水分含水率・収縮幅を測定する。
試験中の床暖房温水温度は $55 \pm 2.5^{\circ}\text{C}$ に保持

2. 試験前のサンプル状況

	材質		厚み	試験方法	備考
サンプルA	栗	無垢材	15	2重貼り	
サンプルB	栗	無垢材	15	2重貼り	
サンプルC	栗	無垢材	15	2重貼り	
サンプルD	栗	無垢材	15	2重貼り	

3. 試験期間

試験開始日時	2009/10/6 AM 8:00
試験終了日時	2009/10/16 AM 9:00
試験時間	241 時間

4. 試験中のサンプル表面温度

平均表面温度 $28.0^{\circ}\text{C} \pm 2.0^{\circ}\text{C}$

5. 試験結果及びサンプルの状況

サンプルA	試験前	試験後	
水分含水率の変化	11 %	7.2 %	乾燥度 -3.8 %
横幅収縮の変化	91.7 mm	90.52 mm	収縮幅 -1.18 mm
外観の変化	ヒビ割れ・歪みは認められなかった		

サンプルB	試験前	試験後	
水分含水率の変化	10.1 %	7.1 %	乾燥度 -3 %
横幅収縮の変化	91.25 mm	90.38 mm	収縮幅 -0.87 mm
外観の変化	ヒビ割れ・歪みは認められなかった		

サンプルC	試験前	試験後	
水分含水率の変化	10.3 %	7.3 %	乾燥度 -3 %
横幅収縮の変化	90.67 mm	89.89 mm	収縮幅 -0.78 mm
外観の変化	ヒビ割れ・歪みは認められなかった		

サンプルD	試験前	試験後	
水分含水率の変化	10 %	6.7 %	乾燥度 -3.3 %
横幅収縮の変化	90.23 mm	89.13 mm	収縮幅 -1.1 mm
外観の変化	ヒビ割れ・歪みは認められなかった		

6. 結論

試験は実際の使用状況を想定して行いました。

試験は実際の使用状況を想定し、床暖房温水温度を55℃に設定して連続加温試験を行いました。

サンプルフローリング材にヒビ割れは認められませんでした。

サンプルフローリング材に歪み・反りが認められませんでした。

収縮幅は0.78~1.18mm前後でした。床暖房の使用時には、場所によって目地が0.5~2.0mmほど広がる可能性があります。

採用しても問題の生じることがないと判断します

以上報告いたします。